

やり直しのできる社会を！

2024.7.10

新宿連絡会NEWS

VOL. 90

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
NPO新宿気付
TEL.03-6826-7802 FAX.03-5273-6895
<http://www.tokyohomeless.com>

溶けて、消えてけ ～連絡会の30年～

笠井 和明

30年目の夏である。

走り続けることを目的にしたわけではない。

当初立てた目標やら、方針やらが、大風呂敷か故に、なかなか、それらが達成されず、結果、収集がつかず、長い道のりになっただけである。

しかも、路上の運動は、この地に当事者が居なくなったらその根拠を失うわけであるが、それが、その時々々の社会経済的な理由や、時代、時代の都市と地方の関係など、想定外の事情が色々あって、当事者の人数が決してゼロにならないとなると、やめるきっかけすら、つかめない。

今、路上に居る人々を組織化し、自立支援なり生活保護なりを社会に要求し、改善し、生きる道を示し、共に歩もうとしても、次の週から、全く知らない新しい仲間と出会う。

そうすれば、また最初からやり直し。路上で暮せるよう、それ以上墮ちないように応急援護の支援をし、話を聞き、何が必要なかを共に考える。そして、一緒に福祉事務所に行ったりと、その希望を共になえるため、野宿であると大変なので、「ドヤ」「宿」「シェルター」と、中間施設を探したり。

そうこうする内、当事者の仲間も、仕事を見つけてこの地を去ったり、高齢化すると福祉を受けたり、病気になるったり、亡くなったりをし、世代交代。

人が入れ替わり、入れ替わり続け、それでも、炊出しやら、夜回りやら、衣類配布やら同じことを繰り返し、「仲間たち！」と呼び続け、福祉につながり続け、それで事足りないので、NPOを作り施設運営をしたり、シャワーサービスを試みたり、そこで仲間の仕事を作ってみたり、「食育」なのか何なのか、出来ることは自らやろうと、「自給自足」「農業支援」だと長野に行ったりん

ご栽培やら古代稲作りを手伝ったり、新潟に行って米作りを試みたりと、路上から派生する色々なことをやり続けて来た。

かつて自称していたよう、「路上のなんでも屋」になってしまったようである。

どうしてこんなになったのかを考えると、行政の方が当初「総合的対策」と銘打っていたので、私たちの方も「総合的支援」だ（新宿区への「総合要求闘争」「路上からの提言」だの、総花提言、あれも、これもの総花要求が基本で、その元で個別課題を設定すると云う手法をとってしまった）と、対抗して、しかも、この問題をす



ぐ「解決」するものと、甘く考えていたのが悪かったの
だろう。

まあ、そんなレベルの運動体なので、どだいアニバー
サリーなんてのは似合わない。なので、特別なことはし
ないこととした。

それでも30年前の思い出は、連絡会のホームページ上
の「30周年記念特設サイト」が更新中なので、かつて、
かかわってくれた方や、懐かしさがお好きなお方はどう
ぞごらん下さい。

もはや、こんなものを研究する物好きの人は居ないで
あろうが、もし居たとしたら、私たちの経験も何かの役
にたつかも知れない。

「そんな時代もあった」のである。

しかし、こんなに長く続けていると、支援を下さる
方々には、忸怩たる思いで、頭を垂れるしかない。

路上の人々を何とかして下さいと云う願いを多く頂く
中、何とも出来ないことが数多くあり、その「解決」に
は相応の時間がかかったりもするし、時間をかけても
「解決」されないこともある。「解決」されたと思っ
ていても、いつの間にかぶり返されることもある。

それは単に私たちの力量不足なのだが、一般の方々が
心配下さる思いに、ストレートに応えられないのが恥づ
かしい。

人並みの努力はしたつもりである。それでもこの問題
の終わりは見えない。

……………

30年間、路上に撒き続けているチラシ・ビラは、当事
者のこれからの生き方にとって、何らかの力や希望にな
ってくれたら幸いと、「仲間たち！」で始まるものを今
も続けている。

けれども読まれずゴミ箱の中へとだいたいに行くので
あるが、懲りずに書き下ろしのチラシが毎週、30年もの
間、新宿の路上に蒔かれ続けている。

古い仲間は「紙の爆弾」とか云いながら嬉々としてパ
トロールで配りまくっていた。そんな伝統か、今もチラ
シ撒きは活動中の基本の事柄で、人が集まったらチラ
シを撒く。撒いている仲間は中身は知らないし、あまり
読みもしない。でも、連絡会のチラシだから間違っ
たことは書いていないと「これを読め!」。胸を張って撒き
続ける。

そんなチラシ・ビラを多く作った。仲間向けのがほと
んどで、その原本のすべてが残っているわけではない
が、古いのをちょいと読み返してみると、何だか懐かし
くもなる。

このチラシ・ビラの東、かつて本にしてもらったこと
(「新宿段ボール村のたたかい」現代企画室1996年絶
版)があり、その後、2000年頃からはホームページにア
ップするようになったので、意外と誰でも気軽に読め
る。恐ろしき量の私たちの財産でもある。

このチラシを推してくれるおっちゃん、ファンだと言
って熱心に読んでくれているおっちゃんも、そこそこ居
たりもする。新しめの仲間はこのチラシを握りしめ、福
祉事務所に駆け込む仲間も居る。

そうならばしめしめである。

連絡会が連絡会として居るのは、このチラシのおかげ
かも知れない。

今も新宿に居るよ、見守って居るよと云う、「印」の
ようなものである。

その昔は、情報がないなどの理由から、文化活動やら
ビデオを撮って上映会なんてのも盛んにやっていた頃
があるが、今やネットの時代、おっちゃんもスマホをも
って、Wi-Fiがつながるところであれば、無料で情報を仕
入れている。娯楽の方も、「年末ぐらい紅白見たいよ」
と、そんな仲間の願いに応えるべく、機材搬入やアンテ
ナ設定をして上映会などをやっていたが、今やスマホで
見られる時代。見たい仲間はそれを見る。見たくない仲
間はそんなものは見ない。

時代の流れに逆行する古い仲間もちろん居る。もは
や孤独を楽しんでいるとしか思えない生き方もある。都

雨に濡れても

今度の日曜日は高田馬場事務所鍼灸相談会があります。
夜はボランティアのお医者さんの相談もあります。

おっちゃん、ファンだと言
って熱心に読んでくれているおっちゃんも、そこそこ居
たりもする。新しめの仲間はこのチラシを握りしめ、福
祉事務所に駆け込む仲間も居る。

そうならばしめしめである。

連絡会が連絡会として居るのは、このチラシのおかげ
かも知れない。

今も新宿に居るよ、見守って居るよと云う、「印」の
ようなものである。

その昔は、情報がないなどの理由から、文化活動やら
ビデオを撮って上映会なんてのも盛んにやっていた頃
があるが、今やネットの時代、おっちゃんもスマホをも
って、Wi-Fiがつながるところであれば、無料で情報を仕
入れている。娯楽の方も、「年末ぐらい紅白見たいよ」
と、そんな仲間の願いに応えるべく、機材搬入やアンテ
ナ設定をして上映会などをやっていたが、今やスマホで
見られる時代。見たい仲間はそれを見る。見たくない仲
間はそんなものは見ない。

時代の流れに逆行する古い仲間もちろん居る。もは
や孤独を楽しんでいるとしか思えない生き方もある。都

スケジュール

- 3日(月) 宿舎行脚 9時から(区役所前2分庁舎前)
- 4日(火) シャワーサービス 午前10時より(高田馬場事務所にて)
- 5日(水) 馬場パトロール 午後5時45分、JR高田馬場駅4号出口前
- 6日(木) シャワーサービス 午前10時より(高田馬場事務所にて)
- 9日(日) 鍼灸相談会 午前10時～14時(高田馬場事務所にて)
- ボランティアデイ 午後1時30分より
- 衣類回収(パトロール) 午後4時20分頃より(地下下集合)
- 新宿夜間パトロール 9時～「新宿の日」集合

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議 2024年6月2日 第XVI期 NO146

新宿連絡会
新宿区高田馬場2-6-10-106 03-6826-7802
www.tokyohomeless.com

会の孤独はそんなに悪いことではない。人とのつきあいに疲れ果てた人々は今の過度な情報には流されず、社会に期待をすることもなく、己の道を行く。修行僧のような生き方も、雑踏の新宿の中で可能である。情報は、ゴミ箱の中の連絡会のチラシとスポーツ新聞。

それが心地良いとする仲間は、もはや梃子でも動かない、ベテランの域に達した仲間だけであるが。

.....

30年も新宿の路上を見続け、そこで暮らす人々とつきあい続け、その人々を「仲間」と呼び続けていると、色々なことが見えて来る。時代と云うものも変わり、町並みも変わり続けた。

どんなに再開発が繰り返されたとしても、宿命たる「^{るつぼ}坩堝」には、その「坩堝」の良さがある。

西の「女郎投げ込み寺」として有名な「成覚寺」の逸話やら、「オケラ公園」「泪公園」と呼ばれた西大久保公園の昭和の時代の歌舞伎町にまつわるの悲話やら、「坩堝」と云われる新宿には、それぞれの歴史が有り、そこには時代時代の「弱者」が顔を覗かせる。平成の時代はホームレスとなるのか、それもまた必然であったのだろう。西口のバス放火や、東京都の強制排除や、西口地下の火災も、新宿の悲話として、そこに住む人々に語り継がれるのか。

今や、そんな歴史も知らず、インバウンドの外国人がこの街の主人公になったかのようではあるが。

月日は都市の形を変える。

利便性がよく、近代的な街、東京だと超高層マンション群に象徴され、社会インフラも整い、教育もまた整いと、そこで生きるには、とても便利な街に変わって来た。そして、少子化と云いながら、東京の人口は増え続けている。

西新宿は都庁が来てから33年も経つのに、未だもって再開発。商業地から住宅地へ拡大し、芸能人が飛び降りたのも西新宿の高層マンション。最近では風俗の若い女性が、その客にめった刺しとなった舞台も、これまた西新宿の高層マンション。

そんな階層のふもとは「ホームレス」。先日は地下に住む「ホームレス」のおばさんが、何があったか、交番の警官をハサミで刺す事件もあった。まさに「坩堝」である。何が起きてても不思議ではない。

ま、新宿はそんな絵に描いたような街である。

貧困問題だ、何ちゃら問題ののだと言われる

前から、社会の底辺でしか生きられなかった人々は、「貧民窟」や「山窩」の時代から、戦後の「浮浪者」、「スラム」を経、建設港湾の労働力として「寄せ場」に集められ、下層にまつわるヤクザや風俗の労働者も繁華街に集められ、都市の深部で脈々と生き続けて来た。それは見ようと思わなければ見えなかった。

けれど、それを興味本位で見るとはならない。ましては政治なんてものに利用するものでもない。静かに見守り、同じ視線で、手をそっと、何気なく差し伸べれば良いだけである。その手が要らないと言われれば引っ込め、また別の手を用意する。

このような連綿たる時の流れや、新宿の路上の怨嗟の思いの蓄積の中に、今の私たちがいると思いたい。

生まれて初めて「ホームレス」と云う生き方を知った人にとっては、それは私たちとは違った感覚や感想になるだろうが、そういうきっかけが減ったのも確かである。

都内の野宿集住地域の多くが、なくなり、減った。新宿で云えば、その昔は24時間、どの曜日やどの時間に来ても、「ホームレス」と呼ばれる人々に出会えることが出来た。が、今はそうではない。一定の時間に集まり、一定の時間の中で寝る。テントや段ボールハウスは、ポツン、ポツンなので、表からはなかなか見えない、中で寝ているのか、外出しているか判らない。お巡りのようにのぞき込むわけにも行かず、人ではなく箱を見ているだけとなる。まあ、これでは現状は判らない。炊出しと云おうか、食料配布と云おうか、そんな所に顔を出しても、集まる人々は明らかに「ホームレス」ではないような人々。聞いてみても、「ホームレスではありません」「生活保護を受けています」などのお答え。女性も多く、家族のような人も居る。

かつて連絡会が大々的に炊出しをやっていた頃、その食数は、路上の数とまったくリンクしておらず、炊出しには生活保護の人々が多く集まってしまうのは、まあ、当たり前であったが、今もまた同じく。



そんな場所で集まった人々と話すのは良いが、興味本位で同情したとしても、それはその程度。なかなか実相はつかめない。

たとえば、コロナの時の「定額給付金」、もらいましたかと聞いてみても、貰った人に限って「貰っていない」と答えるものである。そう云う嘘は自らを守るため。路上のコミュニティなんてものも変わっている。団地と同じで、隣の人のことは知らないよと云う、そう云う暮らし方が今や主流になっている

国や都の「実態調査」のアンケート類も、アンケートをする側の属性や個性によって答えは変わってくると云うことを知った上で、アンケートをしなければ、「概数調査」など数の把握もそうであるが、本当の実態はつかめない。

今、巷で語られている「ホームレス問題」とか、「ホームレス対策」とかは、過去のステレオタイプのものをベースにしているから、今の実情にマッチしないものも多い。

それに捕らわれて、空しいこぶしを上げ続けるのが、担当の相談員。意味のないことをするのが一律悪いわけではないが、やり甲斐があるのかないか問われれば、成功例が少なくなると頭を抱えてしまう。

うまくいったのだと思っ込んでいるだけの感も強い。実際は人の人生、これからも山あり、谷あり、戻って来たり、野垂れ死んでしまったり、と、そんなものでもある。

けれども、コツコツ、地道に、そして丁寧なやる事が大事なようである。学者や評論家のように決して知ったかぶりをしない。路上を見続けると云うことは、そう

云うことでもある。

.....

さて、コロナ渦も終わり、すべてが元に戻って来たのであるが、新宿の路上の現状もまた、元に戻りつつある。コロナ後の社会と云うのは、色々と世評されているところであるが、単に元に戻っただけではないようで、社会の矛盾や怒りや悲しみと云うものが、規制されていた間、どこか目の見えない場所で熟成され続けていたようで、新たな問題が発生して来ても不思議ではない。

歌舞伎町の「ト一横」と呼ばれる若い人々の問題は、歌舞伎町がコロナ規制で事実上閉鎖されていた頃には思いも寄らぬ出来事で、その間、東急による歌舞伎町タワーの再開発がされ、旧コマ前の広場が、自由な空間のよう演出された、その時に偶然派生したようでもある。その頃苦難を受けた飲食系、風俗系の人々ではなく、その後、異性を求めたり、東京に憧れたり、家出をして来たり、と、街への吸収力が高まった時、若い人々が、そこにもともといた路上の人々に酒を通じて合流し、いわゆる溜まり場になってしまったのであるが、それを取り締まったとしても、何も解決しないし、ビジネス街ではないので、街はそれを許容してしまうから、今の対応はまあ、イタチごっことなっている。

その歌舞伎町、今は昼夜問わずどこもインバウンド（訪日外国人）で一杯である。そして、歓楽街なので、若い人々が大量に居る。活気が戻ったと云えばそうであるが、その戻り具合は異常なくらいである。

路上の仲間は、そこにアルミ缶を置いて、いつの間にか「物乞い」の商売を始めると、本国にも大量にいるのであろう、「ホームレス」など珍しくなく（世界的インフレと格差拡大で、どの国の都市も「ホームレス」は増えていると聞く）、小銭やお札をそこに入れる。酔っばらって、蹴っ飛ばして行く平成の頃の偏狭で神経質な日本人サラリーマンは少なく、その恰幅と同じく寛容な外国人観光客が日本人「ホームレス」を守ってくれている。

そんな構図に変わり始めた頃、新宿の路上の数も、元に戻り、「困難を抱えた路上の女性」も増え、マッチ売りをしなくても、じっとしているだけで目に留まり、何らかの知遇を得ることができる。それを意識しているか、いないかはともかく、そう云う存在として路上生活者はこの街に定着しつつある。

最近では、私たちの夜間の調査で新宿駅周辺で160名を軽くカウントするようになり、工事中で、頻繁に寝場所を変えなければならない新宿駅西口地下も含め、新しい仲間が目につくようになった。そして、思いもかけないところに寝ていたり、明らかに新規で新宿に来たような仲間も多い。

まあ、そこら辺の人々は中高年層で、何かと仕事がある若者はそんなに居ないのであるが、それでも全体的に



はだいぶ若返ったような感じもする。

新宿の周辺部の駅や公園などもまた同じ。居座ってしまふ女性は居るわ、昔ながらの日雇いのおっちゃんも居るは、長期の者も、新規の者も居るは。

まあ、なかなか賑やかにもあり、毎日、毎週、そんなところを回ってみても、飽きはこない。

そんな新宿の変遷を、現場で30年も見続けられて来たこと、そして、何かしらのアプローチをし続けて来たこと。それに意味があるのか、どうなのかは置いて、とにかく誇らしい。

成果や効果など、どうでも良いのである。この新宿の底辺・下層の世界、それをずっと見守ってくれている人や団体があると云うことだけで良いのだと思う。社会から排除されても、そこに仲間が居る。それだけで生きていける。だから、やり直そうとも思える。そんなものである。

30年はひとつの節目である。長くやっていたら良いと云うことでもない。長くやっていたら「慣れ」が生じ、やっている人も歳を取る。それでも、ひとつひとつのことを振り返り、同じ過ちを繰り返さない、とにかくやり続けることに、何らかの意味を見いだせるような気がする。

運動を作ると云うことは、政治の世界と同じで、狐と狸の化かしあいでもある。嫉み、僻み、内部抗争、派閥抗争なんてのは当たり前で、時には撃たれて追い出される者もいる。

私の山谷時代の先輩も、数年前、その政治闘争に敗れ、その地から退却した。律義な彼はわざわざ新宿まで来てそのことを後輩の私に伝えてくれた。彼は、それこそ40年（学生の頃からずっと）はその活動を邁進したのだろうか。多くの仲間に慕われ、信頼もされた。新宿連絡会が出来た頃、そして強制排除の時も毎日のよう新宿に来て、共にたたかった。路線をめぐる論争もした。意見の違いで表面は敵対しているように見え、それでも、どこかで合えば、普通に話し合う仲でもあった。お互い認めあう活動家の関係である。

その彼が敗戦の弁を縷々語った、さぞ悔しかっただろうと思っていたら、その最後、「でも、何だかんだと、楽しかったよ」と、あっけらかんと笑う姿は、何だか、とてもすがすがしく、そして、格好良かった。

去るものがあるのも運動でもある。それを人生賭け、やり続ける「変わり者」が居るのも、また運動である。

私たちの運動は、新宿と云う「カオスの街」に育てられた。「宿場街」としてのおおらかさに助けられた。それは、とても僥倖なことである。

30年もこの街に居続け、この街に暮す幾多の路上の人々と出会えたこと、その姿を見つけてくれたことに感謝である。そして、こんな団体を支え支援して下さる全国津々浦々の方々にも感謝である。路上の運動を敵視する風潮が強い中でも、そんな世論に屈せず、何かを信じてくれた、そんな多くの人々に私たちは支えられて来た。それは、連絡会の宝でもあり、財産でもある。

味方がいれば敵も多い。その味方が居たおかげで、ここまで来た。その味方の中には数多の新宿のおっちゃん達が居る。

社会から騙され続けて来た下層の民は、敵と味方を見定める能力を身につけている。新宿のおっちゃん達はすぐさま連絡会を味方の陣営であると認めてくれた。何をしたわけでもなく、只、飯を配り、夜の新宿をチラシを持ってうろちょろしていただけなのであるが、そんな愚直な活動家の姿が当事者から認められたのだろう。それもまた、僥倖であり、そして、奇跡でもあった。

そして、これからも同じ道を往く。

より、この街に溶け込み、そして、それが当たり前となり、やがて、さよならも言わずに消えていく、そんなのも良いかも知れない。

(了)



い り り ん 村 プロジェクト ～ 2024 田植編 ～

「コロナ渦」で中断していたが、いりりん村での共同生活やら、息抜きやら、耕作やら、耕作と言っても、持って帰ってシェルター「馬場ハウス」の調理や、毎週握って、新宿の仲間提供のおにぎりの具にしたりと、そんな程度の規模であるが、そんなことを再開してから3年目。昨年、米作りにチャレンジしようと、田を起こし実験をした地に、今年もみんなで稲を植えようと6月12日、先発隊4名と後発1名の、計5名のメンバーで田植え作業を行ないました。

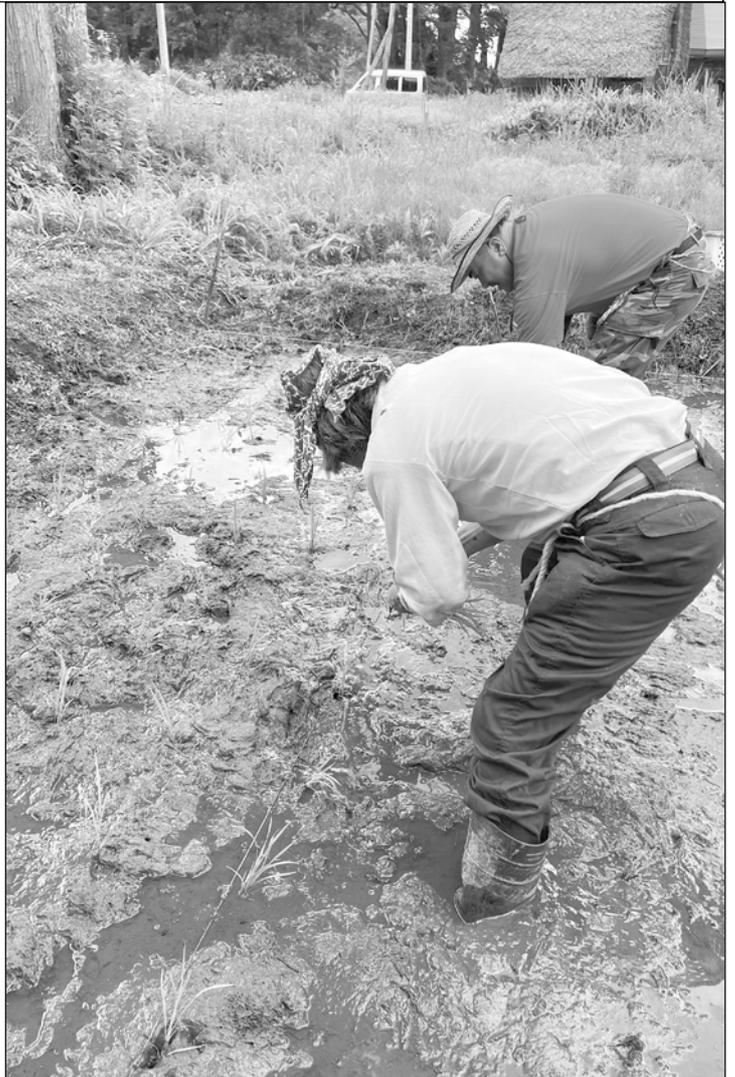
昨年の反省の上にたち、今年は真つすぐ、均等に植えようと、目印のついた「田植え綱」を用意し、炎天下の中でしたが、ゆっくり、丁寧に、「腰が痛い」「足が抜けない」と、いい歳したおじさんが、ワイのワイのと騒ぎながら、それなりに、しっかりと植えることが出来ました。梅雨入りが遅く、水不足が深刻な新潟県でしたが、「いりりん村」には山からの水脈があり、何とかなっています。

畑では、キャベツ、枝豆、里イモ、サツマイモ、かぼちゃ、じゃがいも、を植え、草刈りも、皆がお金を出し合って購入した草刈り機があつちを刈ったり、こちを刈ったりと大活躍。朝昼晩とみな当番で、お米は釜で炊き、地元のものを持ち寄ってこれまたワイワイガガヤの食事作り。夜は車で山を降り、温泉に浸かり満天の星を見ながら一日の疲れを取る。とても健康的な生活が送れました。

今年もまた暑くなると、稲や野菜の成育に影響が出るので心配ですが、それも含めて色々勉強させてもらっています。

秋の稲刈りや、収穫が楽しみです。もちろん、それまで、放ったらかしにせず、スタッフが毎月、小屋に泊まり、草刈りや、農作物の管理も怠りません。

無事に育ち、収穫できれば、この米は今年の年末の炊き出しに使う予定です。地元の農家さんの厚い協力の元、皆の力で作ったお米が、無事に新宿の仲間へ届けられるか。お天道さま次第ではありますが、ま、のんびりと、頑張りながら、このプロジェクト続けていきたいと思っています。



巡回 おにパト報告

おにぎりパトロールも春から夏、引き続き毎週日曜日に実施しています。定点活動と訪問活動をミックスさせるのが私たちの手法ですが、路上巡回活動は基本中の基本。夜の新宿のみならず、昼の新宿、深夜の新宿、新宿駅周辺、そのまた周辺部と、仲間を求めて歩き廻ります。寝場所の変遷をどう把握するのか、巡回コースをどう作るのか、常に考え、そして修正しながら、より多くの仲間に出会えるよう巡回をしています。

新宿駅周辺部は連休明けから仲間の数は増えています。連休明けの増加と云うのは久しぶり。そう云えば、いつも、毎年そうだったと、「コロナ」前に戻ったことを、そんなことで実感をしています。

おにぎり巡回パトロール 3-6月越冬期実績

		都庁	西	公園周辺	東	小計		周辺部	戸山地区	合計	
							(前年同月比)				(前年同月比)
2024	3月3日	37	17	10	21	85					
	3月10日	38	28	18	27	111					
	3月17日	41	26	22	26	115					
	3月24日	36	19	21	24	100					
	3月31日	44	17	16	26	103					
	3月平均	39	21	17	25	103	(▲20)	11	6	120	(▲23)
	4月7日	48	19	19	28	114					
	4月14日	42	13	20	22	97					
	4月21日	43	14	21	33	111					
	4月28日	43	14	20	24	101					
	4月平均	44	15	20	27	106	(▲13)	10	3	119	(▲19)
	5月5日	49	16	21	31	117					
	5月12日	49	14	20	35	118					
	5月19日	45	17	24	31	117					
	5月26日	38	12	24	27	101					
	5月平均	45	15	22	31	113	(▲9)	9	4	126	(▲15)
	6月2日	43	11	20	40	114					
	6月9日	42	13	21	30	106					
	6月16日	42	22	21	28	113					
	6月23日	58	20	27	37	142					
6月30日	49	18	27	29	123						
6月平均	47	17	23	33	120	(+10)	10	6	136	(+11)	
									4ヶ月平均	125	(▲16)

深夜巡回（パトロール/軽食配布、毛布配布3月より6月）活動で出会った仲間の数

2024									
日時	天候	4号街路	都庁下周辺	西口地下	西口地上	東(御苑舎)	大ガード周辺	新南口周辺	深夜計
3/10-11深夜	晴	20	37	47	13	2	9	15	143
3/24-25深夜	小雨	17	41	39	15	3	8	15	138
4/14-15深夜	晴	26	38	42	16	2	5	21	150
4/28-29深夜	晴	22	42	38	19	1	4	16	142
5/12-13深夜	曇	21	38	54	15	2	8	22	160
5/26-27深夜	曇	22	40	53	13	2	10	22	162
6/9-10深夜	小雨	24	39	54	15	3	10	22	167
6/23-24深夜	曇	31	44	45	14	3	9	15	161
平均									153名 前年比+18名

花見から夏まつりへ

今年の桜は開花が遅かった。3月30日、こちら辺でよからうとした予定は見事に外れ、新宿中央公園の桜はほとんど蕾のまま。日当たりの良い場所の桜の木がちらりほらりと咲いている程度。しかし、予定したものは変更できぬと、80名程の仲間と共に「新宿花見の会」を敢行。

前の日から仕込み、当日朝から焼き続けた「生姜焼き弁当」に。お酒もたんまり持ち込み、皆で乾杯！「花より団子」で、ご飯を食べたり、車座になってお酒を飲んだり、わいのわい。冬を越した喜びを皆で分かち合いました。

新年度。冬を越しても、いつもの日常活動。毎週日曜日はおにぎり握って、衣類を出して、健康相談もしたり、巡回に回ったり、まだまだ朝晩は寒いと毛布を配り続けたりと、そんなことをしている内に、早くも半年が過ぎ、梅雨入りから、初夏のシーズン。そうすると夏まつり・慰霊祭。今年は30周年記念と称し、8月12日（祝・月）新宿中央公園で実施します。どうぞ、線香でもあげに来て下さい。

連絡会30周年記念

夏まつり・慰霊祭 2024

in新宿中央公園

2024/8/12 PM16:00より

慰霊祭&炊出し（冷やし中華）

&暑気払い（ビールなど飲料）

（雨天は都庁下）

by新宿連絡会

新宿連絡会 会計報告

今年前半も多くの寄付金、寄付品を頂きました。いつも、いつもありがとうございます。

2023年度の収支報告と2024年度4-6月期の収支報告となります。ご確認ください。

昨年度はおかげさまで多くの寄付が集まり、安定した事業運営が出来ました。今年に入り、能登半島地震の影響もあり、寄付金が減少気味ですが、それは被災地優先となりますので仕方のないこと。なければならぬにこちらは頑張りますので、路上の方はまずは置いて、北陸の復興を引き続き優先してもらいたいと思います。

衣類やアメニティ、食料品など、現物での寄付も受け付けています。そちらの方も良かったら宜しくお願い致します。

2023年度 新宿連絡会収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
1 計上収入の部		2 管理費	
1 寄付金収入	5,931,724	旅費交通費	51,520
		通信費	356,816
計上収入合計	5,931,724	消耗品費	101,905
		事務用品費	179,476
II 計上支出の部		事務所費分担金	360,000
1 事業費		衛生管理費	19,089
おにぎり/炊出し事業	600,680	支払手数料	151,187
巡回活動費	593,615	車両費	80,249
農業支援事業費	1,040,977	修繕費	83,980
夏まつり事業費	194,106	計上支出合計	6,071,044
越冬越冬事業費	1,653,230	計上収支差額	△139,320
その他活動事業費	604,214	前期収支差額	239,715
		次期繰越金	100,395

2024年度 4月～6月新宿連絡会収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
1 計上収入の部		2 管理費	
1 寄付金収入	737,170	旅費交通費	5,500
		通信費	22,688
計上収入合計	737,170	消耗品費	50,422
		事務用品費	90,000
II 計上支出の部		事務所費分担金	3,477
1 事業費		衛生管理費	24,280
おにぎり/炊出し事業	174,288	支払手数料	18,420
巡回活動費	204,821	車両費	0
農業支援事業費	320,197	修繕費	
その他活動事業費	22,580	計上支出合計	936,673
		計上収支差額	△199,503
		前期収支差額	100,395
		次期繰越金	△99,108

●活動カンパ

振込は 郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

●郵便物、物資カンパの送付先は以下の住所にお願いします

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場2-6-10 NPO新宿気付 新宿連絡会 宛てでお願いします。